

第3回 TCER 経済セミナー

[パネル・ディスカッション]

「改めて、自由な国際貿易と投資の意義を考える」

日時：2025 年 7 月 25 日 (金) 19:30～21:00

会場：オンライン（一般公開）、

東京大学伊藤国際学術研究センター・特別会議室（招待者限定）

主催：東京経済研究センター（TCER）

■概要

- ◆ 第二次世界大戦後の自由な国際貿易・金融を目指す体制（ブレトン・ウッズ体制）とその背後にある理念、すなわち「経済相互依存による平和の追求」が、崩壊しつつあり、それに代わって、大国の覇権に基づく経済・安全保障体制が台頭してきています。
- ◆ その体制のもとでは、国際貿易・金融はむしろ武器と化しています。しかも、通常の武器と異なり、市民を巻き込むことがむしろ前提となっているように見えます。
- ◆ 本セミナーでは、こうした現状理解のもとで、理想をどこに置き、国際社会、そして日本は、現時点でいかにして次代の国際貿易・投資の制度を構築していくべきかを議論します。

■登壇者

パネリスト：

- ◆ 遠藤正寛（慶應義塾大学商学部教授）
- ◆ 木村福成（慶應義塾大学名誉教授・シニア教授／JETRO アジア経済研究所所長）
- ◆ 古沢泰治（東京大学大学院経済学研究科教授）

司会：

- ◆ 植田健一（東京大学金融教育研究センター長、東京大学大学院経済学研究科教授、公益財団法人東京経済研究センター代表理事）

■参加申し込み

本イベントは、**オンライン（ZOOM）にて一般公開**いたします。
参加登録は、下記 URL のフォームまたは QR から（**定員 300 名、先着制**）。
後日、参加用の URL 等の詳細を、メールにてご案内いたします。

URL https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScVr93ojSWb5G4I3Lkjl_0OfoyM5cjMlqKAEVQHmWt6-LOL9w/viewform



■プログラム

- ◆ 19:30～20:15 パネリスト 3 名による講演
- ◆ 20:15～20:50 パネル・ディスカッション
- ◆ 20:50～21:00 Q&A（会場およびオンラインから）

■ご留意

- ◆ 本イベントは、一般オンライン公開です（対面参加は招待者限定）。
- ◆ 講演およびディスカッションは日本語で行われます。
- ◆ イベントの内容は後日、『経済セミナー』誌（日本評論社）に収録予定です。

■登壇者紹介（敬称略）

遠藤 正寛（えんどう・まさひろ）

- ◆ 慶應義塾大学商学部教授。
- ◆ 大学外では、財務省財務総合政策研究所客員研究官や財務省税関研修所講師などを務める。
- ◆ 専門は国際経済学と北海道経済論。国際経済学に関しては、日本において輸入の増加が賃金や雇用に及ぼした影響と、インクルーシブな貿易になるための政策を論じた『輸入ショックの経済学』（慶應義塾大学出版会、2023 年：第 64 回エコノミスト賞受賞）がある。また、北海道経済論では、近刊『北海道経済論（仮）』（慶應義塾大学出版会、2026 年）がある。その他、学術論文を *Journal of the Japanese and International Economies* や *Review of International Economics* などに掲載している。
- ◆ 1991 年慶應義塾大学商学部卒業、1996 年慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程単位取得退学、同年小樽商科大学商学部助教授、1999 年慶應義塾大学商学部助教授、2000 年慶應義塾大学より博士（商学）取得、2006 年より現職。

木村 福成（きむら・ふくなり）

- ◆ 慶應義塾大学名誉教授・シニア教授／日本貿易振興機構アジア経済研究所所長。
- ◆ その他政府関係では、経済産業省産業構造審議会通商・貿易分科会不公正貿易政策・措置調査小委員会委員長、財務省関税・外国為替等審議会関税分科会長などを務めている。
- ◆ 専門は国際貿易論、開発経済学。主要研究テーマは東アジアの国際的生産ネットワーク、経済統合と世界貿易機関（WTO）、およびデジタルエコノミー。近著に木村福成、グエン・アイン・ズオン、坂田正三、及川景太、岩崎総則、山田康博編（2024）『ベトナムの挑戦：2045 年高所得国入りを目指して』、勁草書房；木村福成、清田耕造、安藤光代、小橋文子編（2025）『国際貿易論の包絡線』、慶應義塾大学出版会；Kimura, Fukunari. (2025) "Geopolitical Tension and ASEAN: How to Keep the World Economy Vigorous?" *Asian Economic Papers*, 24(2): 1-17 ; Hayakawa, Kazunobu; Kimura, Fukunari; and Yamanouchi, Kenta. (2025) "The Trade Effects of Export Control Regulations in Japan." *The Journal of the Japanese and International Economies*, 77 (September)など。
- ◆ 1991 年ウィスコンシン大学マディソン校 Ph.D.（経済学）。1991-94 年ニューヨーク州立大学オルバニー校経済学部助教授、1994-2024 年慶應義塾大学経済学部助教授・教授。2008-24 年東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）チーフエコノミスト、2012-14 年東京経済研究センター（TCER）代表理事。2024 年 4 月より現職。

古沢 泰治（ふるさわ・たいじ）

- ◆ 東京大学大学院経済学研究科教授。
- ◆ 専門は国際経済学であり、これまでに *Journal of International Economics*, *Theoretical Economics*, *International Tax and Public Finance* などに論文を掲載している。著書に、『ベーシック経済学：次につながる基礎固め』（有斐閣、2012 年）、『国際経済学入門』（新世社、2022 年）がある。
- ◆ 一橋大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科修士課程を経て、1994 年に University of Wisconsin-Madison にて Ph.D.（経済学）を取得。Brandeis University レクチャラー、福島大学助教授、横浜国立大学助教授、一橋大学教授を経て、2018 年より現職。

植田 健一（うへだ・けんいち）【司会】

- ◆ 東京大学大学院経済学研究科兼公共政策大学院教授、同大学金融教育研究センター（CARF）センター長。
- ◆ 大学外では、東京経済研究センター（TCER）の代表理事の職にあるほか、政府関係では、関税・外国為替等審議会委員なども務めている。パリにある欧州の経済学者中心の団体の CEPR のディスティンギッシュト（卓越）フェローの他、シンガポールにあるアジアの経済学者中心の団体の ABFER のフェローでもある。

- ◆ 研究テーマは、金融システムとマクロ経済の相互関連であり、これまで、*Review of Economic Studies* や *Journal of Economic Theory* などトップレベルの学術雑誌に研究論文を掲載。著書に『金融システムの経済学』（日本評論社、2022 年）、『国際金融』（服部孝洋と共著、日本評論社、2024 年）がある。
- ◆ 2000 年にアメリカ・シカゴ大学で Ph.D.（経済学）を取得後、2014 年まで約 14 年間、国際通貨基金にてエコノミスト、後にシニアエコノミストとして、主に調査局で勤務した。東京大学経済学部卒業後、大蔵省での勤務経験もある。

■公益財団法人 東京経済研究センター（略称：TCER）

1959 年に財団法人として設立（2010 年より公益財団法人）。設立以来、多くの経済学者が参加して主に以下の事業に取り組み、日本の先端的な経済学研究の中心を担ってきた

- ① 大学を越えた研究者の緩やかな共同研究組織としての役割
- ② アカデミックな研究成果を社会に還元するための活動
- ③ 若手研究者の育成、サポート、および研究者間の交流を促進
- ④ 日本に関する研究成果を中心に世界に発信する学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies* 刊行の後援

主に東京の 4 つの大学＝東京大学、一橋大学、慶應義塾大学、早稲田大学の研究者が理事として運営を担っている。

TCER について：

<https://www.tcer.or.jp/about/>